

## C-77 福岡県における制服に関する調査（第一報）－保護者の意見

中村学園短大 ○石橋葉子 柿添みゆき 福女大家政 木村和子

目的 今日社会は個性の尊重に合せて、マスコミュニケーションの発達により街には多種多様な衣服が氾濫している。このような社会の変化の中において従来の制服が保護者や学生自身にどのように受けとめられているのかその実態を把握しこれからの衣生活における制服のあり方を求めるために調査したので報告する。

方法 調査紙は福岡県下の幼稚園、小学校、中学校、高校、短大、大学に約2800部を配布した。幼稚園、小学校は園児、児童の保護者に又中学校、高校、短大、大学は学生自身とその保護者に意見を求めた。時期は昭和49年4月～5月の間に行なつた。質問内容は制服に対する嗜好、イメージ、現在の制服に対する満足度などで保護者に対しては各自のすべての子供（学生）について解答する様に依頼した。整理には九州大学大型計算機センターフアコム230-60を使用し、1.保護者の意見 2.学生の意見 3.親子の意見に分けて整理した。回収率は約80%であつた。

結果 幼稚園、中学、高校の調査対象者はほとんどが制服のある学校に通学している学生の保護者であつたがその中で制服を希望する者は幼稚園では89%、中学校88%、高校92%であつた。小学校、短大、大学では制服のある学校の学生の保護者のうち90%、76%、42%は制服を好み、制服のない学校の学生の保護者は43%、50%、25%と前者に較べて低い希望であつた。幼稚園、高校の制服に対する嗜好において地域差、公・私立の差、男・女の差は殆どみられなかつたが小学生、中学生、短大生、大学生においては都市部には制服を好まないものが多い傾向であつた。